

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2025年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	先人たちが行ってきた建築的な試行錯誤の跡の確認、現在あるいは未来という時代に必要とされている建築行為を見定めるために不可欠である。この科目では建築史の基礎を学ぶとともに建築史への興味を抱かせる。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 日本建築史	ガイダンス・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回		1:竪穴式住居と高床式建物(三内丸山遺跡)／2:古代の神社建築(伊勢神宮/出雲大社)
第3回		3:仏教建築の伝来(法隆寺金堂)／4:古代の都市計画と住宅(平安京、平城京)
第4回		5:浄土教の建築(平等院鳳凰堂)／6:中世の仏教建築(浄土寺浄土堂)
第5回		7:中世の神社建築(厳島)／8:中世の住宅から書院造へ
第6回		9:城郭建築(姫路城)／10:茶室と数寄屋(桂離宮)
第7回		11:近世の寺社建築(善光寺、日光東照宮、栄螺堂)／12:民家
第8回	2. 日本近代建築史	1:西洋文化の移入(グラバー邸/富岡製糸場)／2:日本人建築家の誕生(東京駅/日本銀行)
第9回		3:洋式建築の展開と新しい様式の模索／4:都市計画および構造技術の発達
第10回		5:モダニズム建築の到来／6:戦後復興から高度成長期にかけて(広島平和記念館)
第11回		7:戦後の住宅政策とDK住宅の誕生／8:日本建築界からの発信
第12回		9:モダニズムの先を求めて(つくばセンタービル/京都駅ビル/せんだいメディアテーク)
第13回	3. 西洋建築史	1:エジプト建築(ギザのピラミッド)／2:オリエント建築
第14回		3:ギリシア建築(パルテノン神殿)／4:ローマ建築(パンテオン、コロッセウム)
第15回		5:初期キリスト教建築／6:ビザンティン建築
第16回		7:イスラム建築／8:ロマネスク建築
第17回		9:ゴシック建築／10:中世の世俗建築
第18回		11:ルネサンス建築／12:バロック建築／13:リヴァイヴァル建築
第19回	4. 西洋近代建築史	1:新材料を用いた構造物(1851ロンドン万博/1889パリ万博)／2:都市問題・住宅問題
第20回		3:アーツ・アンド・クラフツ運動(マッキントッシュ)
第21回		4:アール・ヌーヴォ(オルタ、ギマール、ガウディ、モンタネル)
第22回		5:アメリカ建築の近代化(シカゴ高層建築)／6:セセッション(ヴァーグナー)
第23回		7:鉄筋コンクリート造建築の登場／8:ドイツ工作連盟(AEGタービン工場)
第24回		9:近代建築運動(シュレーダー邸)
第25回		10:モダニズム建築の完成と流布(グロピウス、ミース、コルビュジェ、ライト)
第26回		11:アール・デコとスカイスクレイパー(クライスラー/エンパイアステートビル)
第27回		12:第二次世界大戦後の建築(シドニー・オペラハウス)
第28回		13:ポストモダニズム建築(ポンピドー・センター/香港上海銀行)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅰ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2025年度：1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	最も身近な生活の器である住宅について、その計画方法を理解し、快適な住空間を創造する計画技術を学ぶ。また近年の高齢者社会における、住環境整備の需要の高まりを考慮し、ユニバーサルデザインを目指した住戸計画についても、理解を深める。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 寸法のシステム	①寸法の単位とヒューマンスケール
第2回		②寸法のシステム:モジュール、日本の木割り
第3回	2. インテリア空間	①インテリア空間と人間工学
第4回		人体とスケール～人体寸法から動作空間～単位空間
第5回		
第6回		
第7回	3. 住宅計画とは何か	①住宅計画の歩み
第8回		②歴史の中の住宅建築
第9回	4. 住空間の構成原理	①居室の結合タイプ
第10回		②住宅平面の考え方
第11回		機能と動線によるプランニング
第12回		
第13回	5. バリアフリー計画	①バリアフリー・ユニバーサルデザイン
第14回		②多目的トイレ等のハンディキャップ者用の衛生設備
第15回		③車いす利用者、杖使用者の寸法
第16回		④出入口～廊下(スロープ)～エレベーター
第17回		
第18回	6. 環境計画	■7月下旬、前期期末試験実施
第19回		①世界的な地球温暖化対策と環境施策、日本国における対策
第20回		②日本における対策・具体的な制度
第21回		③建設リサイクル、ストックと空き家問題
第22回	7. 室内環境・シックハウス	①化学物質の種類、法規制、機械換気設備
第23回		②アスベスト
第24回		
第25回	8. 駐車場計画	駐車パターン、機械式駐車場、スロープ、駐輪場等の寸法計画
第26回		
第27回	9. 集合住宅の住戸形式	
第28回		
第29回	10. コミュニティ施設と	
第30回	社会福祉施設	
第31回	11. 都市計画	住区と用語
第32回		
第33回	12. 各部計画	
第34回		■12月中旬、後期期末試験実施

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2025年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築構造全般、木構造、鉄筋エンクリート構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	建築工法の概要	構法の変遷、構造の分類
第3回	木質構法の特徴1	木質構法の種類、設計図書
第4回	木質構法の特徴2	木材(建築用木材 組織と性質、規格、変形)
第5回	木質構法の特徴3	木材(木質材料)
第6回	軸組工法1	軸組み工法の構成、部材名称、力の流れ
第7回	軸組工法2	基礎、地盤調査、地業
第8回	軸組工法3	軸組 ～土台、柱、桁・梁・胴差、継手・仕口
第9回	軸組工法4	小屋組 ～和小屋、洋小屋
第10回	軸組工法5	小屋組 ～屋根伏作成(切妻・寄棟)1
第11回	軸組工法6	小屋組 ～屋根伏作成(切妻・寄棟)2
第12回	軸組工法7	壁、筋交い ～概説
第13回	軸組工法8	壁、筋交い ～壁量計算1
第14回	軸組工法9	壁、筋交い ～壁量計算2
第15回	軸組工法10	床組の構成
第16回	軸組工法11	内外装 ～床、内壁、天井、外壁
第17回	軸組工法12	開口部、建具
第18回	その他木造工法	枠組壁工法、大断面集成材工法
第19回	鉄筋コンクリート構造1	構造形式と構造の原理、設計図書
第20回	鉄筋コンクリート構造2	コンクリート(セメント、骨材、混和材)1
第21回	鉄筋コンクリート構造3	コンクリート(セメント、骨材、混和材)2
第22回	鉄筋コンクリート構造4	コンクリート(調合、発注)1
第23回	鉄筋コンクリート構造5	コンクリート(調合、発注)2
第24回	鉄筋コンクリート構造6	鉄筋(種類と強度)1
第25回	鉄筋コンクリート構造7	鉄筋(種類と強度)2
第26回	鉄筋コンクリート構造8	鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)1
第27回	鉄筋コンクリート構造9	鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)2
第28回	ラーメン構造1	ラーメン構造の構成、部材名称、力の流れ1
第29回	ラーメン構造2	ラーメン構造の構成、部材名称、力の流れ2
第30回	ラーメン構造3	基礎、柱、梁、スラブ、壁1
第31回	ラーメン構造4	基礎、柱、梁、スラブ、壁2
第32回	ラーメン構造5	柱・梁の鉄筋量の算定1
第33回	ラーメン構造6	柱・梁の鉄筋量の算定2
第34回	その他RC構造	壁式構造、プレキャスト構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅰ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2025年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみを持ち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	法令集のつくり方(インデックスの貼り方、アンダーラインの引き方)
第2回		
第3回	用語の定義	建築物、特殊建築物、居室、主要構造部、構造耐力上主要な部分、
第4回		建築・大規模な修繕・模様替、延焼のおそれのある部分、耐火・準耐火建築物
第5回	面積・高さの算定	敷地面積、建築面積、床面積、延べ面積、高さ、階数
第6回		
第7回	敷地と道路	道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、壁面線の指定
第8回		
第9回	用途地域	用途地域の建築制限
第10回		
第11回	建蔽率	建蔽率の定義と算定方法
第12回		
第13回	容積率	容積率の定義と算定方法
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回	採光	採光有効面積
第21回		
第22回		
第23回	換気・シックハウス	換気、換気設備、シックハウス対策
第24回		
第25回		
第26回	天井高・階段	天井の高さ、床の高さ、階段、便所
第27回		
第28回		
第29回	耐火・防火	耐火建築物等としなければならない特殊建築物
第30回		
第31回		
第32回	防火・準防火地域	防火地域・準防火地域
第33回		
第34回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅰ（木造）	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位（136時間）	開講・履修期	2025年度：1年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	岡野 勇（建築設計事務所で、教会設計、土気ヒルズと沢山の街並み計画、実施設計、その他数々の住宅を手掛け新築からリフォームまでインテリア、エクステリア、ライティングまでトータルにデザイン設計を行う経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「建築製図Ⅰ」では、各種構造の基本や特徴を、実務的な図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、更に手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解することを目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などの説明
第2回	2. 木造製図	図面の名称・内容・図面の読み方・図面を描く上での注意点
第3回		案内図・求積図・一般事項・基本寸法・面積算出の説明
第4回		配置図講義
第5回～		配置図作図演習①
第6回		配置図作図演習②
第7回		平面図講義
第10回～		1階平面図作図演習①
第11回		1階平面図作図演習②
第12回～		2階平面図作図演習①
第13回		2階平面図作図演習②
第14回		平面詳細図講義
第17回～		1階平面図作図演習①
第18回		1階平面図作図演習②
第19回～		2階平面図作図演習①
第20回		2階平面図作図演習②
第21回		軸組模型講義
第24回～		軸組模型製作演習①
第30回		軸組模型製作演習②
第38回		立面図講義
第39回～		立面図作図演習①
第40回		立面図作図演習②
第41回		断面図講義
第43回～		断面図作図演習①
第44回		断面図作図演習②
第45回		矩計図講義
第47回～		矩計図作図演習①
第48回		矩計図作図演習②
第49回		基礎伏図講義
第50回～		基礎伏図作図演習①
第51回		基礎伏図作図演習②
第52回		1階床伏図講義
第54回～		1階床伏図作図演習①
第55回		1階床伏図作図演習②
第56回		2階床伏図講義
第58回～		2階床伏図作図演習①
第59回		2階床伏図作図演習②
第60回		2階小屋伏図講義
第62回～		2階小屋伏図作図演習①
第63回		2階小屋伏図作図演習②
第65回		展開図講義
第67回～		展開図作図演習①
第68回		展開図作図演習②

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅰ（住宅）	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	7単位（238時間）	開講・履修期	2025年度：1年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	古川 友司（建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	戸建住宅を題材に、建築計画学に基づいた住宅の設計手法の実践とプレゼンテーション図作成の技術を学ぶ。また、自分の考え・提案を他の人の前で発表するプレゼンテーションを積極的に授業に取り入れ、自身の考え・提案の進展を図る。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第5回	1. 住宅模写	①図面の概念の学習：配置図兼平面図の模写 ②図面の表現の仕方の学習：線の使い分けを学ぶ ■模写図面提出
第6回～ 第26回	2. 「増築案」の作成	①エスキースの学習：フリーハンドによる作業の練習 ：建築計画Ⅰで学ぶゾーニング、動線プランニング等の応用 ②配置図兼平面図の作成：製図用具を使用した手書きの図面の作成 ③模型制作による空間の学習：スチレンペーパーによる模型制作により空間を把握する ■作成図面及び模型提出
第27回～ 第77回	3. 木造戸建住宅 渓谷に隣接する 校外型住宅	①類似例の収集と分析。方針の模索 ②エスキースから図面作成、模型制作、プレゼンテーションまでの一連の過程を学習する ③エスキース及びエスキース模型による図面チェック （夏休み期間の初期（7月下旬～8月上旬の昼間）に行う場合有） ④SketchUpによるプレゼンテーション用図面作成 ■CAD出力図・内外パース・データ及び模型提出 プレゼンテーション
第78回～ 第119回	4. 店舗併用住宅 都市型住宅 +店舗	現地調査一計画地と周辺地域（レポート） ①類似例の収集と分析。方針の模索 ②テーマの決定（設計条件の決定） ③エスキース作業とエスキース模型による検討 ④構造形式の検討・チェック ⑤コンピューターCAD（ベクターワークス・SketchUp）によるプレゼンテーション用図面作成 基本図＋内外パース ⑥完成模型の制作 ■中間発表 ■CAD出力図シート・データ及び模型提出 プレゼンテーション

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアコーディネート	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位(102時間)	開講・履修期	2025年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋弘次(一級建築士であり、建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネート業務に従事した経験を活かし授業を行う)				
授業の到達目標	一年を通し、インテリアコーディネートに関わる実務的な知識と手法を習得する事を目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、インテリアコーディネーターの仕事内容、イメージやスタイルなどの専門用語の意味を理解する事に始まり、ワンルームコーディネートを通し、基本となる仕上げ素材や家具の知識を得る。次に、設計演習の計画案についてコーディネートを行い、建築とインテリアを合わせた密度ある計画を実施する。後期では、金具や配線図などの詳細なコーディネートを含むマンションリノベーション課題を通し、パースやプレゼンテーション手法を取得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	第1課題 マンションワンルームIC	[インテリアコーディネートとは]：インテリアとは、コーディネーターの仕事 [スタイルとイメージ]：言葉とイメージ、インテリアの構成要素
第3回～		[住空間①「私室」]：くつろぐ、楽しむ、寝る、作業する
第5回～		第1課題概要説明
第7回～		[家具①]：家具の種類、名作椅子 [家具②]机、食卓、デスク、シェルフ
第9回～		[素材①床]：タイル、フローリング、カーペット、畳、ビニル床、石、ラグ
第11回～		[寸法]：寸法感覚をつかむ、基本寸法
第13回～		第1課題提出
第15回～		課題説明
第17回～		[住空間②「リビング・ダイニング・キッチン」]：くつろぐ、楽しむ、話す、作る、食べる
第19回～		[材料②壁・天井]：漆喰、珪藻土、塗装、木、クロス(織布、紙、和紙、ビニル)金属等
第21回～	第2課題 設計演習課題コーディネート	[ウィンドウトリートメント]：窓のタイプ、ウィンドウトリートメントの種類
第23回～		[色]色の構成、バランス
第25回～		[光①]：照明器具の種類、太陽光の活用
第27回～		コーディネートにおけるプレゼンシート表現方法1
第29回～		第2課題提出
第31回～		第3課題概要説明、クライアントインタビュー実施
第33回～		[住空間③「サニタリー空間」]：洗う、捨てる、脱ぐ、きれいにする
第35回～		[給排水設備]：水栓金具、洗面器等
第37回～		[材料③透明材]：ガラス、アクリル、ポリカーボネード、ガラスブロック
第39回～		[高さ]：高階高住宅、プロポーション、空間の空き、段差の活用
第41回～	第3課題 マンションリノベーション	[建具]：扉の種類、金具、材質
第43回～		[光②]：照明プランニング、配線図練習
第45回～		第3課題提出・プレゼンテーション
第47回～		課題作成
第49回～		コーディネート内容の打ち合わせ
～第51回		第4課題提出(設計演習提出物と併用)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーション	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2025年度:1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也(インテリアデザイン事務所、不動産会社にて、商業施設の開発、店舗の設計管理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	「illustrator」「photoshop」を主としたデジタルツールの操作習得を通し、自身が計画した提案を、他者へ的確に伝えるプレゼンテーション能力を身に付けることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、実務において汎用性の高い「illustrator」「photoshop」の操作習得し、効果的な提案資料作成の基盤を作る。また、設計課題とも連動し、より実践的な提案資料の作成、プレゼンテーションについても学ぶ。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. パソコンを使用する準備	・アプリケーション(illustrator、photoshop)のインストール
第3・4回 第5・6回	2. プレゼンテーションの基礎	・提案与件の整理について ・ビジュアルプレゼンテーションについて
第7・8回 第9・10回 第11・12回	3. Photoshopの基礎	・ラスターデータとベクターデータ ・ピクセル・解像度について ・レイヤー・マスクについて ・画像の切り抜き
第13・14回 第15・16回	4. Photoshopの応用(1)	・背景、添景の合成 ・人の合成 ・写真補正(レベル補正 アンシャープ機能 陰影付けと修正)
第17・18回	5. Photoshopの応用(2)	・CG用テクスチャーの作成 ・手描き風写真加工
第19・20回 第21・22回 第23・24回	6. illustratorの基礎	・[線]: ペンツール、ペジェ曲線、アンカーポイント、パス、ブラシ ・[面]: 面作成、レイヤー前後関係、加工、パスファインダー ・[カラー]: カラー設定、スウォッチ登録、グラデーション ・トレースチャレンジ・ライブペイント ・[文字]: 文字設定、段落設定、文字のレイアウト、フリーフォントの活用 ・[画像配置]: 解像度おさらい、画像のリンク、埋め込み、ライブトレース、ラスターライズ
第25・26回 第27・28回	7. illustratorの応用(1)	・レイアウトのルール、手順・フォントの選定 ・学生名刺の作成
第29・30回	8. illustratorの応用(2)	・VectorからIllustrator、図面の着色、ドロップシャドウ
第31・32回 第33・34回	9. プレゼンテーションの実践	・Powerpointの基本 ・プレゼン資料(スライド)の考え方 ・設計演習課題との連動(スライド、ビジュアルデータの作成)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	パース演習	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2025年度：1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	前島 和也(パース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築やインテリアの設計プロセスにおける空間のイメージスケッチや完成予想図としてのパース(透視図)の作成技法を習得する。具体的には①1点透視図法②2点透視図法③グリッド法などの基本的な作図手順から、パステル・色鉛筆などによる着色までを学ぶ。また、この授業内容と関連する『インテリアコーディネーター』、『商業施設士』資格取得への足掛かりとなることを目指すものである。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、参考建物の見学・スケッチなど、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～3回	1、フリーハンドによるスケッチ	①図法による作図を行う前に、フリーハンドで簡単な立体を描かせることにより、デッサン力を養う。
第4～7回	2、建物スケッチ	①江戸東京たてもの園などに行き、明治・大正・昭和の建物群を見学し、その中の1つの建物をスケッチする。
第8～19回	3、1点透視図・グリッド法による作図	①1点透視図・グリッド法で簡単な立体から室内パースの作図及び着色を行う。
第20～34回	5、設計課題の着色パースを描く	①設計演習Ⅰと連動し、自分がデザインした商業施設の着色パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着色など一通りのスキルを身につける。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図 I	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2025年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	CADの概念を理解し、正しい表現としての適切な作図が行える力を習得する事を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～	目標と準備 基本設定	CADの概念と実務活用、Vectorworksインストール準備 線を描く：ツール操作、クラス設定と線種、設定等 環境設定：ツール配置、作業画面登録
第5回～ 第7回～ 第11回～	作図練習 家具シンボル作成 模写課題「白の家」 配置兼1階平面図	幾何学図形を描く：幾何学図形の作成、加工(切り欠き、張り合わせ)、前後関係 曲線と多角形：円弧、ペジェ曲線、多角形、線分化 作図ベース定義：縮尺、用紙設定、レイヤー設定 通り芯の作図：通り芯、オフセット 壁の作図：ダブルライン多角形、切り欠き 寸法記載：設定、位置の検討 建具の作図：建具の種類、簡易的な窓や開口部の描画 階段：階段の種類と描画、計算方法 建築概要：面積の算定、記号、文字記載
第17回～	2階平面図	図面の管理：レイヤー登録画面設定 作図手順、作図実習
第21回～	立面図の作図	立面図とは：高さの表記、屋根の種類、屋根勾配 作図方法：図面の回転、窓の表現
第25回～	断面図の作図	断面図：断面図とは、切断位置、切断表現 懐寸法：スラブ、屋根、基礎 階段の段数決定の基礎、表現
第29回～ 第31回～	図面着色 sketchup講座	Vectorworksを使用した図面の影付け、テクスチャー表現を学ぶ 基本操作：、SketchUPインストール、図形の作図、カメラワーク、スタイルの管理 立体データの作図：2Dデータからの立体モデリング方法
第35回～ 第37回～ 第41回～ 第43回～ 第45回～ 第47回～ 第51回～ 第55回～	シートレイヤー RC造の1/100図面表現 RC造の1/50図面表現 木造1/50壁の構成 展開図作図の基礎 家具図の表現 S造の1/100図面表現 S造の1/50壁の構成	シートレイヤーの仕組み、設定 RC造の基礎：ラーメン構造、基本スパン、断面構成の把握、基礎ピット、屋上の構成 RC造の応用：仕上げ方法による壁構成の違い、LGSの構成、1/50レベルの図面表現 木造の応用：木造の壁構成 展開図作図：展開図の作図手順、巾木、廻り縁 家具図の基礎：三面図の基本構成と材料、引き出しの構成 S造の基礎：ラーメン構造、基本スパン、断面構成の把握 S造の応用：仕上げ方法による壁構成の違い
第57回 ～68回	レンダリングソフトの活用	SketchUPデータをレンダリングソフトへコンバート、素材や照明の適用 静止画のレンダリング、映像のレンダリング

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	課題研究	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(148時間)	開講・履修期	2025年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリアに関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査など、校外授業を主とする。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① 施設の調査・分析	施設を実際に見て調査し、設計するための参考にする。
第7～10回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第11～16回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第17～20回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第21～24回	調査結果の発表	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第25～30回	② 進級制作のための調査	進級制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第31～35回	必要な資料の収集	進級制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第36～45回	参考作品・展覧会の見学	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第46～50回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第51～74回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	3D・CG	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2025年度：1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	3DソフトSketchUPのモデリング能力を学習する。またレンダリング及びムービーではレンダリングソフトTwinmotionを学習し総合的表現能力を習得する。また、Photoshopの基本を学習する。最終的に設計課題とリンクして3次元モデルでの表現方法の応用を計る。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、3D・CGソフトを使うことによりプレゼンテーション時の表現能力を身に着ける。また、Photoshopのグラフィックソフトを利用することにより表現方法の充実を計る。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2・3回	2. SketchUp・基礎概論	SketchUpの基本環境設定と操作の基本
第4・5回	基本操作	SketchUpの基本操作の練習1
第6・7回		SketchUpの基本操作の練習2
第8・9回	3. SketchUp モデリング	SketchUpの基本操作の練習3
第10・11回		SketchUpによる住宅のモデリング基本1
第12・13回		SketchUpによる住宅のモデリング基本2
第14・15回	4. SketchUpプレゼンテーション	SketchUpによる住宅のモデリング基本3
第16・17回		SketchUpによるプレゼンテーション1
第18・19回	5. Photoshop	SketchUpによるプレゼンテーション2・ムービー作成
第20・21回		Photoshop基本操作1
第22・23回	6. Twinmotion	Photoshop基本操作2
第24・25回	基本操作	Twinmotionの基本操作1
第26・27回	7. Twinmotion	Twinmotionの基本操作2
第28・30回	レンダリング	Twinmotionのレンダリングとプレゼンテーション1
第31～34回	8. プレゼンテーション	Twinmotionのレンダリングとプレゼンテーション2
	総合演習	プレゼンテーション総合演習(まとめ)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	ビジネス実務	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2025年度：1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	中村めぐみ(就職指導業務に従事した実務者が、経験を生かした授業を行う)				
授業の到達目標	現代のビジネス社会で、必須となる、コンピュータ基礎知識とソフトウェアOfficeを習得する。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、Wordで文書作成、Excelで表計算式、グラフなど、PowerPointでは、プレゼンテーション資料を作成出来る等、実務へ活かせるスキルを身につける。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第2回～	1. ガイダンス 2. コンピュータ知識編	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明 ハードウェアの基礎・ソフトウェアの基礎 WindowsとMAC「OS」の種類と歴史、Officeについて(種類) パソコンの基本操作、Windowsの画面構成 主なキーボードの名前と活用方法、フォルダ、ファイルの活用方法
第3回～	3. アプリケーション編 [Word] 基本操作	「一般的なビジネス文書を作成しながらWordの基本操作を学びます」 Wordの特徴・画面構成・日本語入力 ファンクションキー・箇条書き・日付、記号の入力 ファイルのバージョンと保存
第4回～	4. アプリケーション編 [Word] 編集操作	「一般的なビジネス文書をWordで効率よく編集する方法を学びます」 コピー、貼り付け、フォントの設定、文字の配置、文字のデザイン 行間、インデントの設定、罫線
第5回～ 第6回～ 第7回～	5. アプリケーション編 [Word] 応用操作 6. アプリケーション編 [Excel] 基本操作	「画像入りの文書をWordで効率よく作成、編集する方法を学びます」 図形の挿入、編集、写真の挿入、編集、文書の飾り罫線、文書の印刷 「一般的な表を作成しながらExcelの基本操作を学びます」 Excelの特徴・画面構成・ワークシート、セルへ文字、日付の入力 コピー、貼り付け、データの削除、挿入、計算式の作成とコピー セル参照と表示形式、ブックの保存
第8回～	7. アプリケーション編 [Excel] 編集操作	「一般的な表をExcelで効率よく編集する方法を学びます」 文字サイズ、配置、列幅の変更 罫線・塗りつぶし、フォントの色 印刷結果の確認、ワークシートの印刷
第9回～ 第10回～	8. アプリケーション編 [Excel] 応用操作	「Excelでグラフを作成、編集する方法を学びます」 グラフ機能について、簡易的グラフの作成、グラフの位置、大きさの変更 グラフの種類とデザイン
第11回～	9. 総合演習(まとめ)と試験対策	スキル確認の演習問題と試験対策を行います ■12月下旬、後期期末試験実施
第12回～ 第13回～ 第14回～	10. 期末試験結果 11. アプリケーション編 [PowerPoint] 基本と活用操作	期末試験の採点結果と問題の解答＆解説 「PowerPointでプレゼンテーション資料を作成し、発表の方法を学びます」 PowerPointの特徴・画面構成、スライドの作成、挿入、テーマの変更 スライドへ表や画像の挿入、アニメーションと画面切り換え、プレゼンテーションの実行
第15回～ 第16回～ 第17回～	12. パソコン実務編 [Word&Excel&PowerPoint] 各アプリケーションの連携 最終まとめ	「WordとExcelそしてPowerPointとの連携と活用方法を学びます」 OLE機能とその操作方法

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	建築インテリアデザイン学科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2025年度:2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	各施設計画における用語や基本的な考え方を理解する。そのうえで、実際の建築事例の平面図を用いて、計画学的読解力を高める。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	集合住宅	アクセス形式・住戸断面形式の分類
第3回		グループ居住(コーポラティブハウス、コレクティブハウス)
第4回		建築事例の平面図分析
第5回	幼稚園・学校	保育室の計画
第6回		学校運営方式
第7回		平面計画
第8回		建築事例の平面図分析
第9回		建築事例の施設見学
第10回	オフィス	レントابل比、コアタイプ
第11回		コアタイプ
第12回		建築事例の平面図分析
第13回	図書館	図書館の役割
第14回		出納方式
第15回		平面計画
第16回		建築事例の平面図分析
第17回		建築事例の施設見学

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅱ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2025年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみをもち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	高さ制限	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方
	絶対高さ	用途地域等により、建築物の高さが制限される事を解説
第2回	道路斜線	前面道路の幅員により、建築物の高さが制限される事を解説
第3回	道路斜線の緩和	セッバックによる特例、 2以上の道路による特例 道路の反対側の状況による特例、 道路と敷地に高低差がある場合の特例
第4回	北側斜線	
第5回	隣地斜線	
第6回	高さ制限まとめ	演習問題による実習を通して、高さ制限について理解
第7回	確認申請等	建築物の建築において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説 用途変更について、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第8回	中間・完了検査	中間検査・完了検査の必要な時期、及びその申請方法について解説
第9回	確認申請等まとめ	演習問題による実習を通して、確認申請等について理解
第10回	避難施設等	廊下の幅員について解説 客席からの出口の戸、及び屋外への出口の戸について解説
第11回		2以上の直通階段が必要な建築物の条件、及び避難階段の種類等について解説 排煙設備について、その設置条件及び構造等について解説
第12回	避難施設等まとめ	非常用照明・非常用進入口・非常用EVについて、その設置条件及び構造等について解説
第13回	内装制限	内装制限を受ける建築物の条件について解説(令128条の4 表の読み方) 内装制限を受ける建築物の条件について解説(大規模建築物等) 内装制限を受ける建築物の条件について解説(火気使用室) 内装制限を受けた建築物の内装仕上材料等について解説(室内) 内装制限を受けた建築物の内装仕上材料等について解説(通路)
第14回	内装制限まとめ	演習問題による実習を通して、内装制限について理解 非常用照明・非常用進入口・非常用EVについて、その設置条件及び構造等について解説
第15回	構造強度 木造	柱の小径 梁 筋かい、軸組計算
第16回	補強コンクリートブロック造 鉄骨造 鉄筋コンクリート造	地震で倒壊しない塀の構造等を解説 鉄骨造の材料・有効細長比・接合・高力ボルト等を解説 柱・床版・はり・耐力壁の構造等を解説
第17回	構造強度まとめ	演習問題による実習を通して、構造強度について理解

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	構造力学	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2025年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	初歩的な構造物を対象に力のつり合いについて学び、建物の骨組みのどこにどのような力が作用しているかの解法を身につける。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	構造力学概論	建築物の支点・節点および荷重のモデル化、構造物の分類
第3回	力とモーメント	力・モーメント・偶力
第4回	力の合成と分解	合成・分解の計算方法
第5回	力のつり合い	つり合い式
第6回		
第7回	反力	反力の算定(梁)
第8回		
第9回		反力の算定(ラーメン)
第10回		
第11回		反力の算定(3ヒンジ系ラーメン)
第12回		
第13回	応力	応力の算定(片持ち梁)
第14回		
第15回		応力の算定(単純梁)
第16回		
第17回		応力の算定(ラーメン)
第18回		
第19回	トラス	切断法による応力の算定(片持ち梁式トラス)
第20回		
第21回		切断法による応力の算定(単純梁式トラス)
第22回		
第23回		
第24回	断面の性質	断面一次モーメント
第25回		断面二次モーメント
第26回		断面係数
第27回	座屈	
第28回		
第29回	応力度	垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度
第30回		
第31回		
第32回	不静定構造物	たわみ、たわみ角
第33回		
第34回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2025年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	将来インテリア・建築に関連する業務において、知っておくべき最低限の現場実践的な知識の理解を目指す。建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	契約・計画・管理	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方
	契約・仕様書	
第2回	施工計画	工事計画 施工計画 工程計画
	施工管理	
第3回	工事準備	現場 安全 材料 品質管理
第4回	各部工事	仮設工事の要点 種類 仮囲い 足場 棧橋 架設通路 安全施設
	仮設工事	
第5回	土工事	地盤調査 土工事 地業工事 杭工事
	地業工事	
第6回	基礎工事	鉄筋の種類 鉄筋の加工・組立 定着 継手
	鉄筋工事	
第7回	型枠工事	型枠の材料 加工・組立 解体 特殊工法
	コンクリート工事	
第8回	鉄骨工事	コンクリートの材料 用語 調合 製造 運搬・打込・養生 品質管理・試験方法等
	組積工事	
第9回	木工事	材料 工場作業 接合 現場作業 耐火被覆
	防水工事	
第10回	左官工事	補強コンクリートブロック工事 ALC工事 れんが工事
	タイル工事	
第11回	石工事	材料 加工 造作工事 枠組壁工法
	塗装工事	
第12回	建具工事	防水の種類 メンブレン防水工事 シーリング工事
	ガラス工事	
第13回	内装工事	各種下地 塗り工事 吹付け工事
	断熱工事	
第14回	設備工事	種類と特性 素地ごしらえ 工法
	各種工事	
第15回	施工用語	給排水衛生 建築と設備の関連
	施工機械器具	
第16回	その他	屋根工事 金属工事
	積算	
第17回	測量	揚重・運搬用機械 土工事用機械 各種工事用機械 工法と工事等の関係
		工事費の構成 積算用語 積算の基本事項 各種工事の歩掛り・割増率
		縄張り・やりかた 各種測量

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	環境工学	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2025年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	快適な空間を理解し、自らそれを作り出すために、建築が人間に与える環境(熱・空気・光・音など)について工学的な基礎知識を学ぶ。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	波の性質1	波の性質、波としての音、波としての光
第3回	熱の性質2	熱とは、熱の伝わり方
第4回	太陽と地球1	太陽位置、地球の公転・自転、日照と日影
第5回	太陽と地球2	太陽からの放射と地球放射
第6回	太陽と地球3	地球の大気と気象
第7回	光1	光の知覚と物理量
第8回	光2	明るさと快適性①快適な視環境、視環境に影響する諸現象
第9回	光3	明るさと快適性②光源の種類と特徴、電灯照明、昼光照明
第10回	光4	色彩設計 ～色の名前、色彩心理
第11回	熱1	人体の熱収支、温熱快適要素、温熱快適指標
第12回	熱2	室内環境における熱収支、断熱、蓄熱
第13回	熱3	湿気、結露、対策
第14回	熱4	室内空気汚染、換気(目的、必要換気量、原理、種類)
第15回	音1	音の強さ(物理量、知覚、伝搬)
第16回	音2	音の計画(音の評価、環境振動・固体音、響き・知覚)
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設備	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2025年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	遠藤 和広 大手サブコン、中堅設備設計事務所をへて独立。設備設計事務所EOSplus創業者、工学院大学建築学部 非常勤講師 等の実務経験を活かして授業を行う。				
授業の到達目標	建築設備の理解と職業の解説(建築設備はむずかしくないことを伝える) 主として戸建て住宅や集合住宅等に関する環境・設備の理解 その具体的な内容及び到達目標は別途資料であるルーブリック表を参照のこと				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。実務図面を利用したの設備プロット図の作成、その評価。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	事例紹介 設備を学ぼう 建築設備エンジニアの道 建築設備士年収
第2回	空調・衛生・電気	校内・家の中にある設備を調査する
第3回	衛生設備	給水と排水 インフラについて 計画敷地の事前調査について
第4回	給水設備	給水方式 用語の解説
第5回	排水設備	排水設備 用語の解説
第6回	空調設備	室内環境 冷暖房 負荷計算
第7回	換気設備	冷暖房から空気調和へ 室内空気環境の基準 必要換気量の計算
第8回	空調設備のしくみ	ヒートポンプについて 冷熱源・温熱源装置等
第9回	電気設備(1)	電気はどこからやってくる？
第10回	電気設備(2)	電気を送るしくみ 強電設備
第11回	電気設備(3)	情報を通信するしくみ 弱電設備
第12回	電気設備(4)	電灯設備 配線について
第13回	防災設備	災害 火災 停電 自然災害
第14回	中央監視設備	中央監視と自動制御設備のはたらき
第15回	これからの建物づくり	ZEH ZEB HEMS BCP 環境性能とは
第16回	まとめ	
第17回	試験	

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築材料	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2025年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	使用する材料の選択は重要である。意匠面だけでなく、安全性や耐久性という建築の性能に関わる。材料に実際に触れる機会を設け、卒業後に設計の現場において適切な材料の選択ができる能力を養う。材料同士の取り扱い、おさまりについても学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容		
第1回	建築材料の概要	①建築材料の歴史 ②建築材料と規格		
第2回	木 材	①日本建築と木材	②木材の種類	③木材の特徴
第3回		④木材の強度	⑤木材の構造	⑥木材と水分
		⑤木取り、規格、等級	⑧エンジニアリングウッド	
第4回	コンクリート	①コンクリートとは	②セメント	③骨材
第5回		④水	⑤混和材料	⑥コンクリートの性質
		⑦調査設計	⑧コンクリートの種類	⑨コンクリートの製品
第6回	鋼 材	①鉄の歴史	②鋼材とは	③製鋼の工程
第7回		④鋼材の特徴	⑤鉄鋼の種類	⑥鋼材の性質
		⑦鋼材の腐食と防食	⑧鋼材の規格	⑨非鉄金属
第8回	焼成品	①焼成品は焼き物	②タイル	③れんが
第9回		④瓦	⑤衛生陶器	
第10回	ガラスと石	①ガラスとは	②ガラスの歴史	③ガラスの特徴
第11回		④ガラスの種類	⑤石材とは	⑥石材の特徴
		⑦石の分類		
第12回	左官材料・ ボード類	①左官とは	②左官の起源と定義	③左官の特徴
第13回		④近年の左官仕事	⑤左官の種類	⑥ボード類
第14回～ 第17回	その他の材料	①プラスチック材料 ④造作材 ⑥建具	②塗料 ⑤屋根材・防水材・断熱材	③接着剤

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ（RC造）	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位（68時間）	開講・履修期	2025年度・2年（後期）	講義区分	専門実技
教員紹介	篠原 範之（建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	鉄筋コンクリート構造の基本や特徴を、図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、授業の目標・資料・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	エスキスの基本	エスキスの概要
第3回		課題文の読取り方の説明
第4回		
第5回		エスキスに使う単位の説明
第6回		
第7回		敷地の使い方（有効利用）の説明
第8回		
第9回		プランニングの基本を説明
第10回		
第11回		建物の想定床面積の計算
第12回		
第13回		
第14回		
第15回	部分詳細図 作図演習	部分詳細図の概要
第16回		
第17回		部分詳細図講義①—基礎廻り
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		部分詳細図講義②—屋根廻り
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		部分詳細図講義③—2階床廻り
第26回		
第27回		部分詳細図作図演習—タイムトライアル
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		
第33回		最終確認・まとめ
第34回		

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅱ（商業施設）	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位（136時間）	開講・履修期	2025年度：2年（前期）	講義区分	専門実技
教員紹介	栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所、設計施工会社企画設計部で、主にホテル・商業施設・店舗等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 西脇祐輔（実務経験を持つ二級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「設計演習Ⅱ」では、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき商業施設の建築計画を理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 設計演習Ⅱスケジュール・課題内容説明	（仮称）「鎌倉に建つ複合商業施設の設計」 ①スケジュール・課題内容説明、リサーチ開始。
第2回～	2. リサーチ・講義	街や敷地周辺状況を把握、敷地周辺施設の見学を行う。 ②スタディの進め方レクチャー、計画の規模を把握。 ■リサーチレポート提出
第4回～ 第10回	3. 計画敷地の条件分析・方向性の検討	①コンセプト・キーワードを設定する。 法的チェック後、施設ボリューム（構造・階数）・動線・ゾーニングの検討をする。 施設構成（配置・平面・断面・各機能）の検討をする。 用途地域：商業地域、敷地面積：約1,000㎡、構造：RC造、鉄骨造等、階数：地上3階建て程度まで（景観地区：高さ15m制限あり）。 ■企画発表、企画書提出
第11回～ 第36回	4. エスキース	①配置計画（方位・隣地・接道・外構・建築ボリュームの検討） 平面計画（ゾーニング・動線・採光・通風・プライバシー・床面積の検討） 立面計画（外装・ファサードデザイン・サインデザイン等の検討） 断面計画（階高・階段・EV・吹き抜け・ファサードデザイン・斜線制限等の検討） インテリア計画（内装・ファニチュアプランの検討） ■エスキス提出
第37回～ 第63回	5. 図面・模型作成	①設計主旨・建築概要 配置図・各階平面図 立面図・断面図・展開図 内観パース・外観パース 上記の図面を作成する。 プレゼンテーション模型を作成する。
第64回～	6. 最終提出	■最終成果物（図面・模型一式）提出。
第68回	7. クラス発表会	■クラス発表。

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアデザイン	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2025年度：2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（自らのデザイン事務所を20年主宰し、インテリア実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	商業施設及び店舗の実地調査し、「商い」の本質をインテリアデザインの立場より見抜く目を養う。商業施設とは「安心して買い物や飲食ができる空間を創ること」を基に、専門的な知識の学習、設計基本を学び、知恵へと膨らませる。その集大成として、自身で企画した店舗を実地区画にデザイン・設計。模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や専門機関ショールームの見学など、実地レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドや実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。立地調査からコンセプト・デザイン・設計を商いのカタチにまで造り上げることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	インテリアデザインとは 商業施設・店舗の実例をもとに、実践したプレゼンテーションの実演から学ぶ
第2回	2. 課題現地調査	商業施設及び店舗、課題地調査
第3回～	3. 課題現地調査書作成①	現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書(プレゼン資料)を作成①
	4. 課題現地調査書作成②	現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書(プレゼン資料)を作成②
第8回～	5. 調査書プレゼンテーション	現地調査書、プレゼンテーション(各グループ単位)、グループ別講評
第10回	6. インテリア設計概論	実地店舗においての、コンセプト作り、平面ゾーニング、平面計画等の概論を学ぶ
第11回	7. インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関(ショールーム)にて素材研究/体験授業研修
第12回～	8. 平面ゾーニング・計画①	店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成①
	9. 平面ゾーニング・計画②	店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成②
第18回～	10. 設計図書製作①	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成①
	11. 設計図書製作②	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成②
	12. 設計図書製作③	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成③
第26回～	13. インテリア模型製作①	インテリア、模型製作①
	14. インテリア模型製作②	インテリア、模型製作②
第32回～	15. 最終プレゼンテーション①	プレゼンテーション、個別作品講評会①
	16. 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会②
第34回	17. 最終講評会	各作品全体講評会、インテリア設計のまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	家具デザイン	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2025年度：2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（自らのデザイン事務所を20年主宰し、インテリア実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	日々の暮らしや仕事、交流や休息の場面を支えている家具。家具の3要素である「強(堅牢・丈夫)/用(機能・使いやすさ)/美(美しさ・快適さ)」を基軸に、課題に取り組むプロセスのなかで、発想力を磨き上げることを学びます。その集大成として、自身でデザインした家具の企画書・設計図・3D・模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、実物調査や専門機関の見学など、原寸レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドを用い、実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。調査と体験からコンセプト・デザイン・設計を家具のカタチにまで造り上げ、プレゼンテーションすることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回～	1. ガイダンス /講義	家具デザインとは(概論) 家具の実例をもとに、「強・用・美」から学ぶ家具の基礎概論 ※基礎概論～強度・人間工学と用・美しいということ・スタイルの調和
第4回 第5回～	2. 実物(体験)調査 /プレゼンテーション	「名作家具から学ぶ」モダン家具のデザインを実体験 ※プレゼンテーション形式による、レポート作成
第11回～ 第15回	3. 課題演習Ⅰ /講義	「家具デザイン課題演習Ⅰ」 制作フロー～発想原点・テーマと造形・モックアップ制作・作図・プレゼンテーション
第16回	A インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関(ショールーム)にて素材研究/体験授業研修
第17回～ 第19回～ 第22回～	4. 課題演習Ⅱ 5. 家具企画案 6. 設計図書製作① 設計図書製作② 設計図書制作③	「家具デザイン課題演習Ⅱ」 ラフスケッチによる、アイディア出し、コンセプト作成 コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成① コンセプト・家具三面図・3D等、、プレゼンボード作成② コンセプト・家具三面図・3D等、、プレゼンボード作成③
第27回	7. /中間プレゼンテーション	中間プレゼンテーション、中間講評会
第28回～	8. 家具模型製作① 家具模型製作②	家具、模型製作① 家具、模型製作②
第32回～	9. 最終プレゼンテーション① 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会① プレゼンテーション、個別作品講評会②
第34回	10. 最終講評会	各作品全体講評会、家具デザインのまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	パース演習Ⅱ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2025年度：2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	前島 和也(パース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築やインテリアの設計プロセスにおける空間のイメージスケッチや完成予想図としてのパース(透視図)の作成技法を習得する。具体的には①1点透視図法②2点透視図法③グリッド法などの基本的な作図手順から、パステル・色鉛筆などによる着彩までを学ぶ。また、この授業内容と関連する『インテリアコーディネーター』、『商業施設士』資格取得への足掛かりとなることを目指すものである。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、参考建物の見学・スケッチなど、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～3回	1、点景の練習	①樹木・行き交う人々・車両などをスケッチする。
第4～7回	2、街のスケッチ	①市街地に出向き、街にある建物を観察し、その中の建物や街並みの一角をスケッチする。
第8～19回	3、2点透視図による作図	①2点透視図で建築外観パースの作図及び着彩を行う。
第20～34回	4、設計課題の着彩パースを描く	①設計演習Ⅱやインテリアデザインと連動し、自分がデザインした施設の着彩パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着彩など一通りのスキルを身につける。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	5単位（102時間）	開講・履修期	2025年度：2年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司（設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	ArchiCADを学習しBIMによる設計システムを理解する。基本CAD・BIMシステムを理解できるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD・BIM図面の作図方法を学ぶ。また、他の3D・CGソフト及びプレゼンテーションソフトとのリンク方法を学ぶ。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. ソフトインストール	各アプリケーションソフトのインストール
第3回～	3. ArchiCAD 学習方法	ArchiCADの学習目的・学習方法
第8回～	4. ArchiCAD 基本操作	ArchiCAD基本操作1
第12回～		ArchiCAD基本操作2
第16回～	5. ArchiCAD	ArchiCAD 建築図面作成（平面計画の3次元リンクの学習1）
第20回～	基本作図練習	ArchiCAD 建築図面作成（平面計画の3次元リンクの学習2）
第24回～		ArchiCAD 建築図面作成（平面・立面・断面・3次元の関係性の学習）
第29回～	6. ArchiCAD	ArchiCAD 建築図面作成（作図と3次元のレンダリングシステムの学習1）
第32回～	応用作図練習	ArchiCAD 建築図面作成（作図と3次元のレンダリングシステムの学習2）
第37回～		ArchiCAD 建築図面作成（作図と3次元のレンダリングシステムの学習3）
第41回～	7. ArchiCAD	ArchiCAD 建築図面作成（プレゼン方法の学習①）
第47回～	プレゼンテーション	ArchiCAD 建築図面作成（プレゼン方法の学習②）
第49回		レンダリングシステムの応用
第51回	8. BIM・3D-CADのまとめ	BIMシステムのまとめ 3D-CADシステムのまとめ

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	5単位(68時間)	開講・履修期	2025年度:2年(通年・後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉村 とも子(CAD利用技術者1級である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	AutoCADの基本操作と応用操作を習得し、図面作成に必要な知識を身に付ける。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、汎用CADでは世界的なシェアを誇るAutoCADの習得を特徴とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. インストール	AutoCADのインストールとラアクティベーションについて
第3回	3. AutoCADとは	CADソフトの種類、AutoCADのバージョン
第4回	4. AutoCADの作成機能	「基本的な作成コマンドの操作方法を学びます」
第5回		付属CD-ROMの内容と使い方
第6回		画面構成・環境設定・機動と終了
第7回		ファイルを開く
第8回		コマンドの使い方・オブジェクトの選択
第9回		画面の拡大表示と移動
第10回		直線の作成と削除
第11回		新規図面作成・テンプレートと図面範囲
第12回		座標入力
第13回	5. 練習問題①	直行モードと極トラッキング・オブジェクトスナップ、ポリラインの作成と編集
第14回	6. 練習問題②	ファイルの保存とバックアップ、長方形・ポリゴン、円・円弧・楕円
第15回	7. AutoCADの修正機能	直線コマンドを使った図形の問題を作成します
第16回		円や曲線のコマンドを使った図形の問題を作成します
第17回		「基本的な修正コマンドの操作方法を学びます」
第18回		移動と複写、オフセット・回転、トリム・延長、尺度変更・鏡像
第19回	8. 練習問題③	フィレット・面取り、配列複写
第20回		修正コマンドを活用した問題を作成します
第21回	9. AutoCADの応用機能1	「文字や寸法の設定と入力の方法を学びます」
第22回		文字スタイルの役割、文字記入・マルチテキスト・行間隔の設定
第23回		寸法記入スタイルの設定
第24回		長さ寸法・並行寸法・直列寸法・並列寸法・直径寸法・角度寸法・クイック寸法
第25回～	10. 練習問題④	図面に文字と寸法を記入する問題を作成します
第26回	11. AutoCADの応用機能2	「製図における投影法の種類について学びます」
第27回		投影図の作成
第28回	12. AutoCADの応用機能3	「図面作成に重要な、図形を効率よく作成、修正する有効な機能とその活用方法を学びます」
第29回		コマンドエイリアスとカスタマイズ、オブジェクトプロパティ管理・オブジェクトスナップトラッキング、印刷方法
第30回	13. AutoCADの応用機能4	「画層/レイヤーを使った図面の作成について学びます」
第31回		画層/レイヤー・線の種類についての設定と活用方法、グラデーションの作成
第32回	14. 課題図の作成	問題図面データ(配布)を使用して、作成、修正、印刷まで行う
第33回	15. AutoCADの図面演習	「建築図面を作成する手順を学びます」
第34回		RC造マンションの平面図を作成
		各スタイルの設定とテンプレートの活用
		マルチラインの設定と作成
		基点設定・2点間中点・分解・グリッパ編集
		ブロックの作成と挿入・属性の作成と編集
		尺度の考え方と印刷・モデル空間とレイアウト空間

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	課題研究	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(148時間)	開講・履修期	2025年度：2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリアに関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査など、校外授業を主とする。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① 施設の調査・分析	施設を実際に見て調査し、設計するための参考にする。
第7～10回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第11～16回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第17～20回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第21～24回	調査結果の発表	卒業制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第25～30回	② 卒業制作のための調査	卒業制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第31～35回	必要な資料の収集	卒業制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第36～45回	参考作品・展覧会の見学	卒業制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第46～55回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第56～74回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	5単位(170時間)	開講・履修期	2025年度：2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所、設計施工会社企画設計部で、主にホテル・商業施設・店舗等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）西脇 祐輔（実務経験を持つ二級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）吉川 友司（建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「卒業制作」では、集大成として各学生が自由なテーマを設定し、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき計画を進める。テーマに関する情報収集・処理能力や具体化への企画構想力、プログラムにたいしての的確な判断力、プランニング・デザインにおける豊かな想像力、造形力、ビジュアライゼーション・プレゼンテーションにおける表現力等をやしなうことを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全てグループワークによるものであり、テーマ・コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、在学中に学んだ多くの他の授業の集大成である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. テーマ設定	①テーマを設定する。
第2回～ 第3回	2. 調査・分析	①テーマに関する資料収集 計画敷地・上位計画・法的条件調査 類似施設現地調査 テーマ変更・調整・再調査 ②「テーマレポート」について発表する。 ③計画敷地模型を作成する。
第4回～ 第16回	3. 計画敷地の条件分析・ 方向性の検討	①コンセプト・キーワードを設定する。 施設ボリューム・動線・ゾーニングの検討をする。 施設構成(配置・平面・断面・各機能)の検討をする。 ②企画書を作成し、発表する。 ③ボリューム模型作成する。
第17回～ 第43回	4. エスキース	①配置計画(方位・隣地・接道・外構・建築ボリュームの検討) 平面計画(ゾーニング・動線・採光・通風・プライバシー・床面積の検討) 立面計画(外装・ファサードデザイン・サインデザイン等の検討) 断面計画(階高・階段・EV・吹き抜け・ファサードデザイン・斜線制限等の検討) インテリア計画(内装・ファニチュアプランの検討) 以上のエスキースを行う。 エスキース模型作成する。
第44回～ 第80回	5. 図面・模型作成	①設計主旨・建築概要 配置図・各階平面図 立面図・断面図 内観パース・外観パース 以上の図面を作成する。 プレゼンテーション模型作成する。
第81回～	6. 最終提出	①最終成果物(図面・模型一式)提出。
第85回	7. クラス発表会	①クラス発表。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーションⅡ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2025年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	高畑 真澄（CGパース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	1年次に習得した「illustrator」「photoshop」を更にスキルアップし、より成熟した表現やプレゼンテーションを可能とする応用技術を習得する。また、時間内に仕上げる事、クライアントの要求に答える案件により実践的なスキルを身に着けることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、「illustrator」「photoshop」の応用技術の習得、表現力の強化を学ぶ。また、プレゼンテーションシート、ポートフォリオなどのレイアウトなど、実践的な手法を習得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1 絵のまとめ方	□フォーカルポイント、構図、陰影 ・課題に人物と影を作成、フォーカルポイントとは
第5回	2 Photoshop上級編	□写真の明るさや色合いの調整 ・チャンネル、マスク、調整レイヤーとは ・合成時の色合い調整、なじませる方法、描画モードを使いこなす ・素材の作成:切り抜き、テキストチャート素材の作成 ・保存形式による変化、適正なデータ量 ・点景の加工、GIFデータの作り方、AI生成
第10回	3 ポートフォリオ企画案	□ポートフォリオについて ・ポートフォリオの表紙、目次とプロフィール、作品一部
第16回	4 写真加工 レタッチ実習	□リノベーションの依頼と提案 ・クライアントとデザイナーの両方の役割で写真加工
第22回	5 プレゼン (設計課題との連携)	□効果的なプレゼンテーション ・コンセプト、まとめ方、話し方
第24回	6 イラストレーター上級編	□平面図と立面図の着色レタッチ ・インポートと整理、テキストチャート反映、ドロップシャドウの効果、背景、GL以下の表現 □イラストレーター上級編 ・グレースケールの詳細、透明マスク、シンボル、グラフィックスタイル、パターン
第28回	7 レイアウト実習	□レイアウト強化 ・レイアウトの基本パターンとレイアウトグリッド ・用紙サイズによる構成の変化
第30回	8 ロゴデザイン	□ロゴ、サインデザイン(設計演習との連携) ・ロゴデザインとは
第34回	9 映像編集	□CGムービーの適切な表現を学ぶ ・CGムービーの編集、シーンの適切なカット割り、カメラワーク

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週